

地域の将来像:住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

# コミュニティだより

2021.3.15  
第55号

明日の小山田を考える会の目的は、住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創ることです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

## 土づくりは農産物の安定生産の基本!



土壌肥料に係る知識の習得や施肥技術のレベルアップと安全安心な食づくりを目的とした研修会を1月19日(火)開催しました。稲作農家を中心に10名の参加をいただき、午前中は、岩手県農林水産部農業普及技術課主任農業普及員の葉上恒寿氏をお招きし「土壌の特性と施肥管理」、「土壌診断と施肥改善」についての基礎的な説明をいただきました。午後は、今年度購入した簡易土壌分析装置の取扱についての研修会を紫波町の(株)佐藤政行種苗の猿橋勇人氏をお招きし手順について説明をいただきました。硝酸態窒素や交換性加里など6成分を一度の操作で測定できることもあり、参加者の関心度も高く早速検査をしたいとの要望を頂き、3月下旬から順次検査を開始します。



## コロナ禍の中での、この一年

**4月** 令和2年度通常総会は新型コロナウイルス感染防止の観点から、書面議決書による議決行使となり、議決書提出者全員の賛意により可決され、役員改選についても、同じく全員の賛意により、会長・副会長・事務局長・監事はそれぞれ再任となりました。



**5月** 5月14日(木)、振興センター美化事業として、小山田保育園児と一緒にプランターにマリーゴールドの花苗の植え付け作業を行いました。子供たちからは「植えるのが楽しかった」、「お花がきれいだった」など笑顔で話してくれました。センターの敷地内に花が植えられたプランターが置かれ、訪れる方々を和ませてくれました。



6月

6月25日(木)、NPO法人わが流域環境ネットの佐井氏を講師にお招きし「刈払機取扱作業安全衛生教育」講習会を開催しました。地域から20名が受講し刈払機に関する知識、振動障害、関係法令など5科目の学科と旧小山田小学校グラウンドで実際に刈払機を使用しての実技を行いました。後日、受講者に労働安全衛生法に基づく修了証が交付されました。



7月



7月2日(火)・9日(火)・16日(火)の3日間、大迫町の佐々木孝子氏を講師としてお招きし、ママカフェrainbow「ヨガ教室」を開催しました。新型コロナウイルス感染防止対策により、平日日中の開催にも関わらず皆さんの参加をいただきました。ゆっくりと身体の動きに呼吸を併せ心身の緊張をほぐしていました。

7月30日(木)、大迫町の伊藤里奈氏を講師としてお招きし、「自分だけのお茶わん作り教室」を開催しました。23名が参加し、白地のお茶わんに、お花や動物、乗り物、野球のボール・バット、サッカーボールなど、自分の好きな転写シールを貼り、自分好みのお茶わんを作りました。細かい作業で最初は大変そうでしたが、徐々に上手に作業を進めていました。後日、焼き付けが終わった作品を見て皆さん満足気でした。



8月

8月25日(火)・9月1日(火)の二日間、元花巻市社会教育指導員の根子英郎氏を講師としてお招きし、きぬかわカレッジ歴史講座「供養絵額を学ぶ」と題し開催しました。初回は座学、2回目は東和町内の信泉寺と瀧澤寺、浄光寺を巡り実際に供養絵額に触れました。参加者からは、先祖を敬い、大切にしたい思いに触れ、そこに込められた願いの意味を知り、心に残る講座だったと話していました。



8・9月

昨年度に引き続き、小学生を対象とした「まほろばの郷かけっこ教室」を、セントラルフィットネスクラブ盛岡から指導員をお招きし旧小山田小学校グラウンドを会場に5回のコースで開催しました。1年生から5年生17名の参加申し込みをいただきました。子供たちは先生の指導を受けおもいっきりグラウンドを駆け回っていました。



**9月** 9月6日(日)、矢巾の(株)コハタから講師をお招きし、旧小山田小学校グラウンドを会場に「ドローン飛行講習会」を開催しました。若い人達を含め11名の参加をいただき大空の飛行を楽しみました。最初は操縦に戸惑ったものの、慣れたころには上空100mからの小山田の風景を楽しんでいました。農業用ドローンの実演飛行もあり皆さんの関心も高かったです。



**10月** 10月31日(土)、旧小山田小学校グラウンドを会場にグラウンドゴルフ大会を開催しました。小学生を含め30名の参加を頂き6チームに分かれ熱戦を繰り広げました。二日前の雨でグラウンド状態が心配されましたが、その心配をはじき飛ばすような好プレー、珍プレーが続出し、秋空に笑い声が響き渡っていました。



**12月** 12月18日(金)、町内の「農事組合法人ガンバいさご」代表の菅金夫氏をお招きし「組織化による効率的な農業の実現と基盤整備」をテーマにご講演をいただきました。地域の農業に携わる20名の参加をいただき、近年目まぐるしく変化する農業情勢に対する対応策とより効率的な農業生産の活動について学びました。



12月25日(金)、石鳥谷町の鎌田友律子講師をお招きし「紙ねんど工作教室」を開催しました。小学生の親子11名が参加し、2021年の干支「丑(うし)」の可愛らしい置物を講師の説明を聞き、夢中になって作っていました。それぞれ個性いっぱいの作品が完成しました。



令和3年2月末現在

( ): 前月比

小山田の人口	世帯数/戸	男/人	女/人	計/人
第1行政区	60 (-2)	94 (-2)	76 (-1)	170 (-3)
第2行政区	149	209 (-1)	205 (-1)	414 (-2)
第3行政区	158	221	237	458
第4行政区	110	185	177	362
計	477 (-2)	709 (-3)	695 (-2)	1,404 (-5)



春の訪れ、フクジュソウ  
(小山田振興センター敷地内)  
令和3年2月26日撮影

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています

発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941  
ホームページ：http://www.asuno-oyamada.jp  
メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp



## 不寛容の時代

明日の小山田を考える会  
会長 菊池 保守

不寛容とは、辞典を引くと、心が狭く人の言動を受け入れないこと、他の罪や欠点などを厳しくとがめだてすること、とある。反対に、寛容とは、寛大でよく人を許し受け入れること。とがめだてしないこと、とある。特にキリスト教では、他人の罪過を厳しく責めない、という教えがある。

何故、この題材にしたかという、今年1月に民主主義の超大国である米国大統領選挙結果を不服とし、トランプ氏の熱烈な支持者が連邦議会に乱入し死傷者が出た事件は世界に衝撃を与えたからである。選挙結果は民意の表れであり、尊重することが根幹であるにもかかわらず、これほどまでに不寛容な国になってしまったことの衝撃は、同じ価値観を共有する国にとって大きな不安を抱えることとなった。ご存じのように、米国は何より多様性を尊重し、それが国の発展につながってきたことは事実である。それがこれほどまでに憎みあい、罵り合い、暴力に発展したことのお驚きは隠せない。これにより国際的な地位の低下は明らかであり、そこに、中国やロシアが付け入り覇権を競っている。



果たしてこれからの世界秩序は保たれるのか、または混沌とした時代になるのか現時点では見通せない。

フランス文学者渡辺一夫氏のエッセイにこういうのがある。「自己批判」を自らせぬ人は「寛容」にはなり切れないし、「寛容」の何たるかを知らぬ人は「自己批判」を他人に強要する。「自己批判」とは、自分でするものであり、他人から強制されるものでもないし、強制するものでもない。

そして、不寛容に対して寛容になるべきでない、と言っている。

アメリカ大統領の弾劾裁判は、2月13日上院で無罪となったが不寛容時代に毅然として対抗した例であると推測する。オリンピック組織委員会会長の発言に対しての反応もそうだが、不寛容に対して寛容である時代は終わりつつあるのかもしれない。共通するのは自己批判をしていないことにある。

### ～ 編集後記 ～

令和2年度はコロナで始まりコロナで終わった一年でした。事業開催については、規模の縮小なり中止と感染防止対策を取りながらの実施となりました。今年に入り国内でもワクチン接種が始まり収束を迎えられればいいのですが。早くコロナウイルスとさよならし、普通の生活に早く戻りたいものですね。（菊池）

